



## **ASFALIS TransServer**

### **フォルダ監視機能マニュアル**

株式会社エリジョン

2020年 8月

# 目次

1. フォルダ監視機能	1
1.1. 概要	1
1.2. システム要件	1
2. 導入方法	2
2.1. バッチ機能の導入	2
2.2. フォルダ監視機能の導入	2
3. スケジュール管理	3
3.1. 監視サービス	3
3.1.1. サービス開始	3
3.1.2. サービス停止	3
3.1.3. サービス再起動	3
3.2. スケジュール設定	4
3.2.1. 新規作成	4
3.2.2. 編集	7
3.2.3. 削除	7
3.2.4. エラーチェック	7
3.2.5. 有効化/無効化	7
3.2.6. 手動実行	8
3.2.7. スケジュール管理画面の実行	8
3.3. 変換指示ファイル	9
4. 監視機能のログ	11

# 1. フォルダ監視機能

## 1.1. 概要

本文書では、ASFALIS TransServerのフォルダ監視機能の導入方法、機能について説明します。

フォルダ監視機能では、スケジュール管理画面で特定のフォルダを定期的にポーリングするように設定することができます。ファイルをポーリング対象のフォルダに配置することで自動変換が可能です。

フォルダ監視機能は、バッチ機能を利用しており、JobEntry、JobState、JobDownloadのコマンド設定が可能です。本機能の導入前にバッチ機能を導入してください。

## 1.2. システム要件

フォルダ監視機能を使用するには、.NET Framework 4 が必要です。導入前に.NET Framework 4をインストールしてください。

また、フォルダ監視機能を使用するには以下のライセンスが必要です。

- ASF-API/S

## 2. 導入方法

インストーラに付属のtoolsフォルダを適当なディレクトリにコピーします。

フォルダ監視機能を動作させるには、バッチ機能の導入設定が必要です。以下に示すように、最初にバッチ機能を導入の上、フォルダ監視機能を導入してください。

### 2.1. バッチ機能の導入

「バッチ機能マニュアル」(ASFALIS TransServer\_Batch\_ja.pdf)の「導入方法」をご確認の上、バッチ機能の導入設定を行ってください。

### 2.2. フォルダ監視機能の導入

1. フォルダ監視機能のサービスを設定します。

tools\autoregister\conf\AutoRegisterService.conf ファイルを開き、サービスを実行するアカウントがアクセス許可を持っているフォルダを以下のパラメータに指定します。

- JobStatusFileOutputDirectory  
ジョブステータスファイルの出力先フォルダを指定します。
- RegisterFileOutputDirectory  
レジストファイルの出力先フォルダを指定します。

2. ASFALIS TransServer AutoRegisterServiceをサービスに登録します。

tools\autoregister\service\install.bat を管理者権限で実行してください。

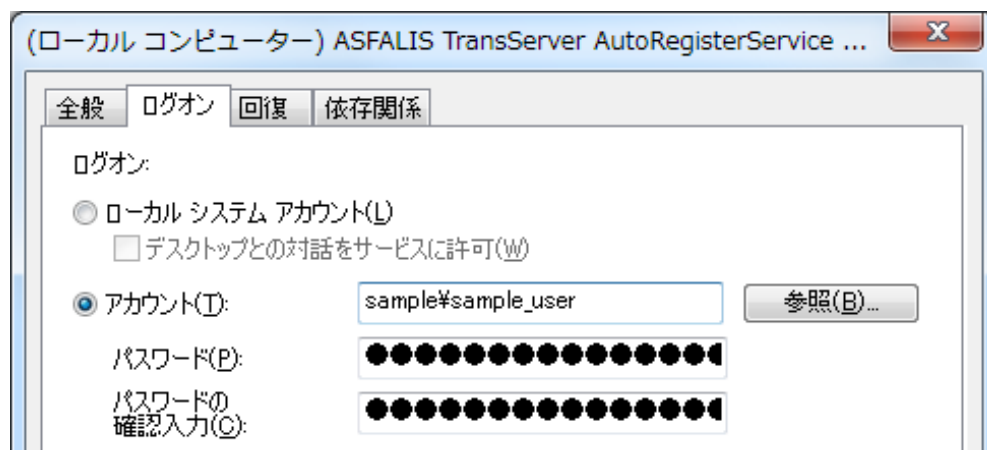
正常に登録されると、以下のメッセージが表示されます。

[SC] CreateService SUCCESS

3. 登録したASFALIS TransServer AutoRegisterServiceのログオンを変更します。

[コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [管理ツール] - [サービス]の ASFALIS

TransServer AutoRegisterService を選択してプロパティを表示します。[ログオン]タブでアカウントを選択し、サービスを実行するユーザと同じアカウントおよびパスワードを設定してください。

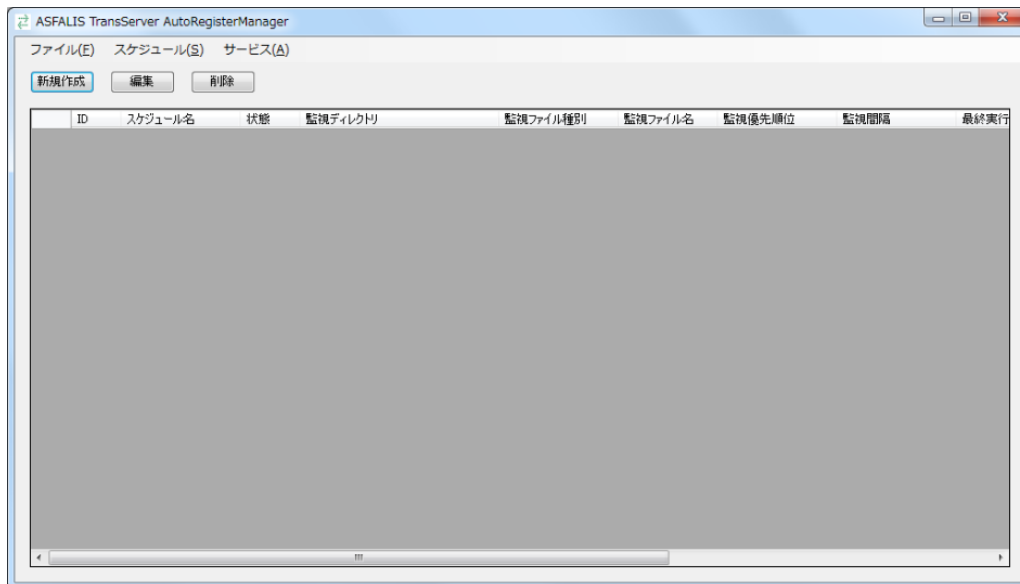


サービスの開始が出来ない場合は、AutoRegisterService.confの出力先フォルダのアクセス権限を確認してください。現在ログインしているアカウントに対しアクセス許可が必要です。

## 3. スケジュール管理

ASFALIS TransServer AutoRegisterManagerを起動します。

tools\autoregister\manager\AutoRegisterManager.exeをクリックすると、以下の管理画面が表示されます。



### 3.1. 監視サービス

#### 3.1.1. サービス開始

メニューの[サービス] - [開始]を選択します。

「ASFALIS TransServer AutoRegisterService」を開始します。

#### 3.1.2. サービス停止

メニューの[サービス] - [停止]を選択します。

「ASFALIS TransServer AutoRegisterService」を停止します。

#### 3.1.3. サービス再起動

メニューの[サービス] - [再起動]を選択します。

「ASFALIS TransServer AutoRegisterService」を再起動します。

## 3.2. スケジュール設定

### 3.2.1. 新規作成

[新規作成]ボタンを押します。

開いたダイアログ上で、スケジュール設定、およびコマンド設定を行います。

#### 【スケジュール設定】

- スケジュール名：  
スケジュールの名前を設定します
- 監視ディレクトリ：  
監視するディレクトリを指定します。



監視ディレクトリの指定は、サービスからも参照できるパス (UNCなど) をご利用ください。ディレクトリの監視にはWindowsサービスを使用しており、監視対象のパスは同サービスから参照できるものである必要があります。ネットワークドライブはログイン情報と紐付くため、サービス上からは利用することができません。

- 監視種別：  
CADファイルもしくは指示ファイルを選択します。指示ファイルの場合、監視ファイル名は指定することができません。「\*.info」が自動的に設定されます。指示ファイルの書式については「[3.3, “変換指示ファイル”](#)」をご確認ください。  
監視ファイル名: 監視するファイル名を指定します。複数個指定する場合は、以下のように「/ (スラッシュ)」で区切って指定します。

(例) \*.prt / \*.zip

- 監視間隔：
  - 一定間隔、時間指定、曜日＋時間指定、日＋時間指定から選択します。
  - 一定間隔：監視を分間隔で設定します。（1～9999）
  - 時間指定：監視を時間指定で設定します。
  - 曜日＋時間指定：監視を曜日と時間指定で設定します。
  - 日＋時間指定：監視を日（1～31）と時間指定で設定します。
- ファイル出力：
 

「あり」もしくは「なし」を設定します。「なし」の場合は、JobDownloadのコマンド設定は出来ません。
- 備考：
 

スケジュールの備考を記入することができます。

### 【コマンド設定】

JobEntry、JobState、JobDownloadのコマンドを設定することが可能です。各コマンドのオプションについては、「バッチ機能マニュアル」(ASFALIS TransServer\_Batch\_ja.pdf)の「各プログラムの実行方法」をご確認ください。

- JobEntry：
 

ジョブ投入コマンドのオプションを設定します。

(例)

```
-U ログイン名 -W パスワード -L オペレーションID -S シナリオID
```

AutoRegisterService.conf の RegisterFileOutputDirectoryで指定したパスに、レジストファイルが出力されます。レジストファイルは、ジョブのIDや投入されたジョブのステータスが以下のファイル名形式で書き込まれます。

ファイル名の形式

- 指示ファイル監視の場合：\${指示ファイル名称}\_\${レジストID}.txt
- CADファイル監視の場合：\${スケジュールID}\_\${レジストID}.txt

投入されたジョブのステータスコードの内容は、以下の表をご確認ください。

コード	内容
0000	未処理
0001	ライセンスビジー
0002	処理中
0003	異常終了

コード	内容
0004	正常終了
0006	強制終了
9999	ジョブステータスを取得できない

- JobState :

ジョブのステータス取得コマンドのオプションを設定します。

(例)

```
-U ログイン名 -W パスワード
```

ジョブステータスファイルは、AutoRegisterService.conf のJobStatusFileOutputDirectory で指定したパスに、\${ジョブID}.txtの形式で出力されます。

正常終了しJobDownloadのコマンドオプションに指定された出力先がある場合に、ジョブの出力ファイルがダウンロードされたディレクトリの絶対パスをジョブステータスファイルに出力します。

- JobDownload :

ジョブの変換結果ファイル取得コマンドのオプションを設定します。

(例)

```
-U admin -W admin -D ${ResultFolder}\download\${RegisterId}
```

出力ファイルおよび変換ログファイルは、以下のフォルダに出力されます。

ダウンロードパス\\${オペレーションID}\_\${入力ファイル}\C\${コンポーネントの順番}\_\${コンポーネントインスタンス名}

- 。出力フォルダの指定方法には、以下の置換キーワードが使用可能です。

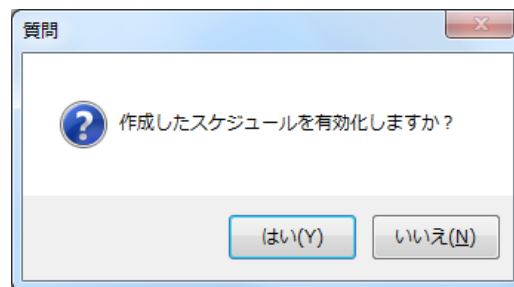
置換キーワード	説明
\${LoginName}	ログイン名
\${JobLotId}	投入時のオペレーションID
\${JobId}	投入時のジョブID
\${RegisterId}	監視モジュールで発行する固有のレジストID
\${ResultFolder}	変換結果出力フォルダ (tools)\autoregister\service\result
\${InputFileName}	投入時の入力ファイル名 (拡張子抜き)
\${ScheduleName}	スケジュール名
\${ScheduleId}	スケジュールID
\${EntryDate}	自動ファイル投入機能のファイル投入日 (年月日)



置換キーワード	説明
\${EntryDateTime}	自動ファイル投入機能のファイル投入日時 (年月日時分秒)

[設定]ボタンを押し、スケジュールを保存します。設定内容に問題がある場合は、エラーアイコンとツールチップが表示されますので、内容に従って修正してください。

スケジュールをすぐに有効化する場合、作成したスケジュールを有効化するかどうかのダイアログが表示されますので、「はい」を選択してください。



スケジュール保存時に監視サービスと通信を行います。通信に失敗した場合は、エラーが表示されます。サービスが起動しているかご確認ください。

### 3.2.2. 編集

スケジュール一覧から編集するスケジュールを選択し、メニューの[スケジュール] - [編集]を選択もしくは、ダイアログの[編集]ボタンを押します。

スケジュール設定ダイアログが表示され、スケジュールを編集することが可能です。

### 3.2.3. 削除

スケジュール一覧から削除するスケジュールを選択し、メニューの[スケジュール] - [削除]を選択もしくは、ダイアログの[削除]ボタンを押します。登録したスケジュールを削除します。

### 3.2.4. エラーチェック

メニューの[スケジュール] - [エラーチェック]を選択します。

スケジュールが正常かどうかチェックされます。スケジュールが正常な場合は、「スケジュールは正常です」とダイアログが表示されます。エラーを検出したスケジュールは、スケジュール一覧画面で、背景色が赤色で表示され、無効化されます。

### 3.2.5. 有効化/無効化

スケジュール一覧から有効化/無効化するスケジュールを選択し、右クリックメニューから「有効化」/「無効化」を選択します。

有効化されたスケジュールのみ監視対象となります。有効化されたスケジュールは、スケジュール一覧画面で、背景色が白色で表示されます。無効化されたスケジュールは、灰色で表示されます。（エラーチェックで、エラーがある場合は赤色表示になります。）

### 3.2.6. 手動実行

スケジュール一覧から手動実行するスケジュールを選択し、右クリックメニューから「手動実行」を選択します。スケジュール設定され自動投入されたジョブより優先して実行されます。

### 3.2.7. スケジュール管理画面の実行

メニューの[ファイル] - [終了]もしくは、ダイアログ右上の[閉じる]を押してください。  
ASFALIS TransServer AutoRegisterManagerを終了します。

### 3.3. 変換指示ファイル

スケジュール設定では、変換指示ファイルによる変換設定が可能です。変換指示ファイルは「\*.info」の拡張子で作成し、監視ディレクトリに置いてください。

- ・ ノード名と内容については以下の表をご確認ください。

階層	ノード名	説明
1	auto_register_instruction	指示ファイルのルート要素
2	user	ジョブの投入者のログイン情報を格納する要素
3	login_name	ASFALIS TransServerへのログイン名
3	password	ASFALIS TransServerへのログインパスワード
-	/user	(終了タグ)
2	job_entry_request	JobEntryの-Xで渡すXMLの要素と同じフォーマット(「バッチ機能マニュアル」参照)
2	job_download_request	ジョブダウンロードを行う必要がない場合は、本要素を省略する
3	download_path	ジョブダウンロードによりダウンロードしたファイルの配置先ディレクトリパス 省略時、job.iniのSAVEDIRがダウンロード先のディレクトリとなる
3	job_output_flg	ジョブの出力ファイルとして指定されている変換結果ファイルをダウンロード対象に含める 0: ダウンロードしない 1: ダウンロードする
3	log_flg	変換ログファイルをダウンロード対象に含める 0: ダウンロードしない 1: ダウンロードする
3	component_output_flg	ジョブの出力ファイルとして指定されていない変換結果ファイルをダウンロード対象に含める 0: ダウンロードしない 1: ダウンロードする
3	zip_flg	ダウンロード対象ファイル/ディレクトリを1つのZIPファイルに圧縮するかどうか指定する 0: 圧縮しない 1: 圧縮する
3	unzip_flg	変換結果がZIP形式の場合、ZIPの解凍を行うかどうか指定する 0: 展開しない 1: 展開する
-	/job_download_request	(終了タグ)
-	/auto_register_instruction	(終了タグ)

- ・ 例) ParasolidファイルをEnfに変換する指示ファイル

```
<?xml version="1.0"?>
<auto_register_instruction xmlns="Elysium.K2"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <user>
    <login_name>guest</login_name>
    <password>guest</password>
  </user>
  <job_entry_request>
    <file_type>0</file_type>
    <via_updir>1</via_updir>
    <input_files>
      <input_file>
        <input_file_path>C:\k3\test\indir\Asm1.x_t</input_file_path>
        <top_assy>1</top_assy>
      </input_file>
    </input_files>
    <job_lot_id>2</job_lot_id>
    <scenario_id>2</scenario_id>
    <job_option>
      <priority>1</priority>
      <is_nightly>0</is_nightly>
    </job_option>
  </job_entry_request>
  <job_download_request>
    <download_path>C:\k3\test\downmdir</download_path>
    <job_output_flg>1</job_output_flg>
    <log_flg>1</log_flg>
    <component_output_flg>1</component_output_flg>
    <zip_flg>1</zip_flg>
    <unzip_flg>0</unzip_flg>
  </job_download_request>
</auto_register_instruction>
```

## 4. 監視機能のログ

監視サービスおよび、スケジュール管理のログは以下の場所にかかれます。

- 監視サービスのログファイル

tools\autoregister\service\logs\AutoRegister.log

- スケジュール管理のログファイル

tools\autoregister\manager\logs\AutoRegisterManager.log

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。  
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの  
行為をすることは禁じられています。